

17	刈谷	刈谷市立小垣江小学校	いそむら れみ 名前 磯村 玲美
分科会番号	18	分科会名	情報化社会の教育 ()

研究題目

関わり合いを通して、気付きを深める児童の育成

研究要項

1 主題設定の理由

2年生の本学級は、自分の興味があることについては、活発に発言したり、全力で取り組んだりすることができる児童が多い。1学期「おいしそうなやさいができた！」では、自分の野菜に愛着をもち、変化の様子に着目して観察することができた。しかし、それぞれの野菜の様子を共有した際に自分の意見をまとめて相手に分かりやすく伝えたり、他者の意見を聞いてそれを自分の植物の観察に生かしたりすることができず、気付きを十分に深めることができなかった。

そこで、情報を精選して、分かりやすく伝えられるようにし、他者の意見を聞き相違点を考えることで、気付きを深めることができるようにしたいと考えた。2学期の生活では、「わたしの町はっけん」の実践を行う。その中で、児童たちが地域へ関心をもち、他者と関わり合いながら気付きを深められるようにしたい。以上のことを踏まえ、研究主題を「関わり合いを通して、気付きを深める児童の育成」と設定した。

2 目指す子ども像

関わり合いを通して、気付きを深めることができる児童

3 研究の仮説

<仮説>

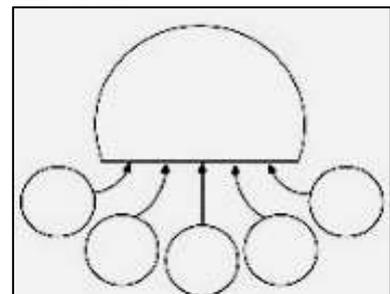
思考ツールや話型を活用して意見を分かりやすく伝える工夫をし、地域や他者と関わり合うための手だてを講じることで、気付きを深めることができるだろう。

4 仮説に対する具体的な手だて

(1) 手だて① 意見を分かりやすく伝えるための思考ツールや話型の活用

1回目の探検の後、自分たちが見つけてきたものを紹介する際に話型を活用し、自分の意見を順序立てて伝えることができるようにする。ワークシートに「はじめ・なか・おわり」の枠を作り、話す内容を整理する。「はじめ」には、自分が一番伝えたいこと、「なか」には根拠、「おわり」には「はじめ」と「なか」を通した自分の意見を記入する。

2回目の探検の後、気付きや自分の意見を整理するために、「クラゲチャート」(資料1)を活用する。クラゲチャートは、頭の部分に意見を書き、足の部分に理由を書く。



資料1：クラゲチャート

(2) 手だて② 地域と関わり合う活動の設定

町探検を2回行い、地域の施設や店を見学し、地域で働く人と繰り返し関わり合う機会を設ける。1回目には、児童は見学し施設や店の人の説明を聞いたり施設や店の写真を撮ったりする。2回目には、児童は写真を撮るだけでなく、1回目の見学を通して疑問に感じた点やもっと知りたいと感じたことを質問し施設の方や店の人に答えてもらう。

(3) 手だて③ 地域のボランティアの方と関わり合う活動の設定

地域のボランティアの方にそれぞれの探検に同行してもらい、探検後の話し合いにゲストティーチャーとして来てもらう。1回目の探検後には、働く人の「〇〇のため」を調べてくるとよいことを教えてもらい、このアドバイスを基に行った2回目の探検後の話し合いで認めてもらい、地域のボランティアの方自身の思いを話してもらう。

(4) 手だて④ 友達や他学年の児童と関わり合う活動の設定

町探検の活動後には、友達と関わり合う活動を設定する。個人→グループ→全体と学習形態を工夫した関わり合う活動を設定し、友達の意見を聞いて相違点を考え、気づきを深めることができるようにする。1回目の探検後には、自分が見つけてきたことを同じ施設や店に行ったグループでまとめ、全体で共有する。2回目の探検後には、まず個人で働く人の「〇〇のため」を考え、グループ、全体で共有する。

単元のまとめとして、1年生に向けて学んだことを発表するかたちで、1年生と関わる時間を設ける。

5 単元構想

単元構想 (25 時間完了)

段階	学 習 活 動	教師の支援
出会う	① 校務の先生のお話を聞こう ・「1年生に小垣江の町のことについて聞かれたが、来たばかりで分からないから2年生に調べて来てほしい」	・単元に対する思いをもつために、校務主任から依頼を受ける場を設定する。 ・解決方法を話し合い、1学期に実施した町探検を想起することで、「探検に行ってみつける」方法に集約する。
	【単元を貫く目的意識】 1年生がおがきえの町をもっと好きになるために、町のすごいを発見して伝えたい！	
知る	②③ 見学先を決め、見学の計画を立てよう ・8つのお店や施設 ④⑤⑥ 町探検に行こう ・地域のボランティアの方に同行してもらって町探検に出かける。 ⑦⑧⑨⑩ 町探検で見つけてきたことをまとめよう ・同じ訪問先のグループで、「押しの一枚」の画像と発表原稿を作成する。 ⑪⑫ 見学で見つけてきたことを伝え合おう ・8つのグループが「押しの一枚」の画像を見せながら発表する。 ・分かったことを話し合い、「働く人の『〇〇のため』を調べたいという新たな視点をもつ。	・児童の希望を基に見学先を決め、挨拶や見学の仕方などの約束ごとを伝え、円滑に見学できるようにする。【手だて④】 ・希望で分けたグループで町探検に行き、町にある店や施設について調べ興味をもって調べることができるようにする。 【手だて②】 ・児童の学びの様子を見取り、価値付けてもらうために、地域のボランティアの方に同行を依頼する。【手だて③】 ・同じ訪問先のグループで見つけてきたことを共有し、「推しの一枚」の画像を選ばせる。【手だて④】 ・「はじめ・なか・おわり」に整理して発表原稿を書かせる。 【手だて①】 ・同じ訪問先のグループごとに全体の場で発表し、他のグループの気づきも共有させる。【手だて④】 ・「もの・人・こと」の観点別に板書をし、「人」の部分が不十分であることに気付けるようにする。 ・地域ボランティアの方から話を聞き、町探検での気づきを深めることができるようにする。【手だて③】
深める	⑬ 2回目の見学の計画を立てよう ・町探検でお店や施設の人に質問したいことをまとめる。 ⑭⑮⑯ 2回目の町探検に行こう ・働く人に質問する。 ⑰ 町の人々の思いを整理しよう ・クラゲチャートに自分の考えをまとめ、グループで共有する。 ⑱⑲ 町の人々の思いを話し合おう ・全体で話し合う。 ・地域のボランティアの方に、働く人の思いに迫った姿を認めていただく。	・「人」に関することや情報が足りないと感じたことについて、質問を考えさせる。 ・グループで交流しながら考えさせる。【手だて④】 ・「人」に関することや情報が足りないと感じたことについて、見学したり、質問したりして調べさせる。【手だて③】 ・「クラゲチャート」を活用し、働く人の思いについて自分の意見を整理させる。【手だて①】 ・グループで共有し、友達の意見を聞いて気付いたことを赤ペンで加筆させる。【手だて④】 ・「〇〇のため」が視覚的に理解できるように板書する。 ・話し合いの様子を地域のボランティアの方に見届けていただき、働く人の思いに迫った児童たちの姿を認めていただく。【手だて③】
広げる	⑳㉑㉒ 町のすごい発表会の準備をしよう ㉓㉔ 町のすごい発表会をしよう ㉕ 学習を振り返ろう	・クイズ、地図、ポスターなどの方法を例示する。 ・学年を解体し見学場所ごとに準備をさせる。 ・1年生を招待し、見学場所ごとに発表を行わせる。【手だて②】 ・単元を通じた自分の成長を言葉で振り返らせる。

(1) 教材との出会いの工夫と単元を貫く目的意識

「出会う」段階では、校務主任から、「1年生に小垣江の町のすごいを教えてあげてほしい」という依頼を受ける。児童たちは1学期に行った町探検で小垣江の町のことにより好きになったことを思い出し、町探検に出かければ小垣江の町のすごいを1年生に教えられると考えるだろう。1年生に喜んでもらい

たいという願いと、町探検で小垣江の町のすごいを見つけ伝えるという目的から、「1年生がおがきえの町をもっと好きになるために町のすごいを見つけて伝えたい！」という単元を貫く目的意識をもたせる。

(2) 気付きの基となる知識を得るために

「知る」段階では、まず調べたいことや見てきたいことを考え、町探検に行く。児童たちは、施設や店にあるものや仕事の様子をたくさん発見してくるだろう。話し合いでは「もの・こと・人」に情報を整理して各施設で見つけたすごいを発表していく。児童たちは、施設にあるものや仕事の様子について発見したことを自分で撮影してきた写真を示しながら話型に沿って生き生きと発表するだろう。「もの・こと」に比べて「人」に関する発表が少ないことに気が付くように板書を工夫し、「働く人について分かること」を二次発問で取り上げることで、人の思いや願いについてよく分からないことに気付かせる。そして、町探検で引率した地域のボランティアの方に、働く人の『〇〇のために』を調べてくるとよいことを教えてもらう。

(3) 気付きを深めるために

「深める」段階では、課題解決のためにはもう一度町探検に行く必要があるという思いが高まるようにする。その後、働く人の思いや願いを見つけるために2回目の町探検を行う。働く人に質問をする中で、働く人は、お客さんが喜んでもらえるような工夫や地域の人が笑顔になるような工夫をしていることを知る。町探検で知ったことを整理する際にクラゲチャートを活用し、働く人の思いを自分なりに考えられるようにする。2回目の町探検の後の話し合い活動では、自分たちが訪問した施設や店だけでなく、全ての施設や店の人がお客さんや地域の人に喜んでもらったり、笑顔になってもらったりするためにたくさんの工夫をして働いていることに気付かせたい。

(4) 単元の振り返り

「広げる」段階では、1年生に小垣江の町をもっと好きになってもらうための発表会を行う。準備の段階では、どのような方法でまとめるとより1年生に伝わるか考える。児童たちは、クイズ形式や、訪問で撮影した写真や動画を使った説明など、さまざまな方法を提案してくると予想される。まとめをする目的を意識させることで、もっといいものを作りたいと活動意欲が高まるようにする。発表会を終え、1年生と校務主任に認めてもらうことで、目的意識を達成し、継続してやり続けた達成感と学ぶ喜びを感じとらせたい。

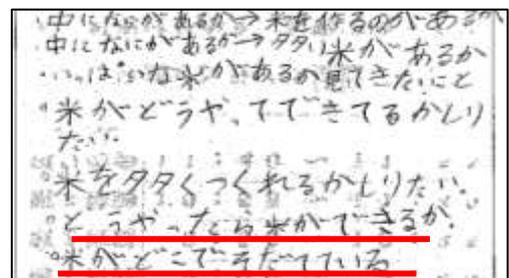
6 実践と考察

第1時、校務主任から「1年生に小垣江の町のことについて聞かれたけど、来たばかりで分からないから2年生のみんなに調べてきてほしい」という依頼を受けた。学級でどのようなことを調べてきたいかを考え、児童は「1年生がおがきえの町をもっと好きになるために、町のすごいところを見つけて伝えたい！」という単元を貫く目的意識をもった。

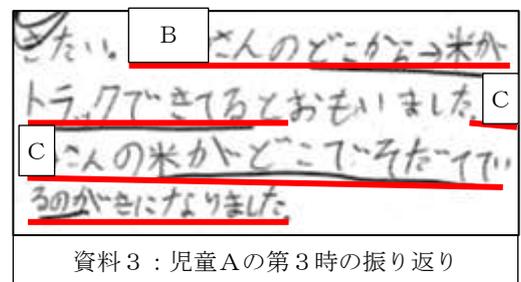
第2時、「見学先を決めよう」では、児童たちの希望により、8つの施設や店のどこに町探検に行くかを決めた。児童Aは、「小川米屋」を見学することになった。

(1) 計画を立てる中で、友達の意見から気付きを深めることができた児童A (第3時 手だて④)

第3時、「見学の計画を立てよう」では、訪問先を選んだ理由を記述し、自分が見てきたいことをワークシートにまとめる活動をした。訪問先で見てきたいこととして、自分の力で5つ考えることができた。全体で共有した後に、「友達の意見でいいと思ったものは付け加えてもいいよ」と伝え、児童Aは、「同じでもいいの」と質問し、ワークシートに「どうやったら米ができるか」「米がどこでそだてている」と書き足した(資料2)。また、振り返りにも、「Bさんのどこから→米がトラックできてる」「Cさんの米がどこでそだてているのがきになりました」(資料3)と、友達の意見を聞いて書き足したことから、友達との関わりを通して見てきたいことについて気付きを深めることができたと言える。



資料2：第3時で使用したワークシート



資料3：児童Aの第3時の振り返り

(2) 1回目の探検でたくさんの「もの」を見つけることができた児童A (第4～6時 手だて②)

1回目の探検で、「もの」に関しては、探検に行く前に見てきたいと思っていたことに加えて2つのことを追加で見つけてくることができた。「こと」に関しては、探検に行く前に見たいと思っていたこと1

つと他に2つを見つけてくることができた。

(3) 分かったことを、話型を生かして伝えることができた児童A (第7～11時 手だて①・④)

第7時には、訪問先が同じグループで見つけてきたことを発表し合った。そして、自分が撮ってきた写真の中から「一押しの写真」を選びタブレット端末を用いて発表用の資料を作成した(資料4)。

次に、話型を活用して自分の意見をまとめ、発表原稿を作成した。実際に発表の時には、原稿を見て自分がその写真を一押しにした理由を整理して伝えることができていた。

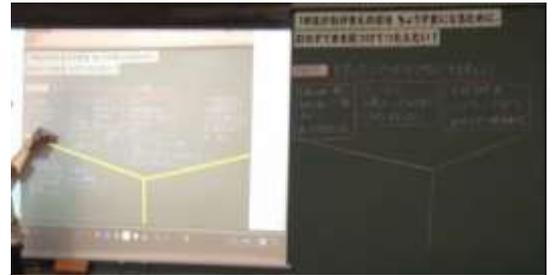


資料4：児童Aの発表資料

(4) 地域の人との関わりから、気づきを深めることができた児童A (第11・12時 手だて③)

第11・12時では、児童たちの発表した見つけたものを教師がYチャートを活用して「もの・こと・人」に分類して板書した。第12時では、第11時の板書をスクリーンに映し、第12時の板書と比較してみると(資料5)、児童の気づきは「もの・こと」に集中し、「人」という視点は出てこなかった。そこで、ゲストティーチャーとして授業に参加していただいた地域のボランティアから、「ここに入るのは人です。」と視点を示していただいた。そして、次回見てくる視点として、地域のボランティアの方の方から「今回は人のことがあまり出ていなかったけど、1年生にもっと詳しく小垣江のことを伝えるために特に『町の人には「〇〇のため」にがんばっている』を聞いてきてほしい」という話をしていただいた(資料6)。

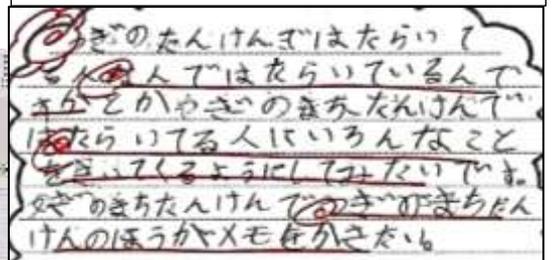
この話を聞いて児童Aは、振り返りに「はたらいている人にいろいろなことをきいてくるようにしてみたい」と記述した(資料7)。地域のボランティアと関わることで、人に着目して探検に行くともっといろいろなことを知ることができると気づき、2回目の町探検への意欲を高めたことが分かる。



資料5：第12時の板書



資料6：「〇〇のため」を示す地域のボランティアの方



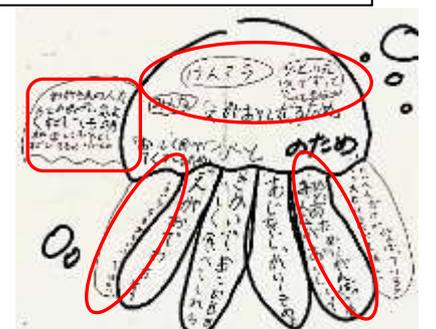
資料7：児童Aの振り返り

(5) 2回目の町探検から、働く人の思いに気付くことができた児童A (第14～17時 手だて① 手だて②)

第14時～16時に2回目の町探検に出かけた。2回目の町探検で児童Aは、プリントがいっぱいになるまでメモをとっていた。また、「撮りたい写真があれば撮りましょう。」と声をかけるとタブレット端末で写真も撮っていた。

探検後の振り返りに、児童Aは「〇〇のためは、ひとのため」と記述した(資料8)。地域の方に質問してお店の人の「〇〇のため」は「人のため」であると自分の気づきをまとめることができたことが分かる。

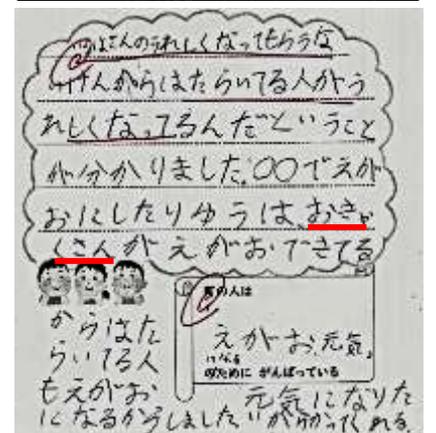
第17時、「町の人々の思いを整理しよう」では、探検して気付いた「〇〇のため」について、個人でクラゲチャートを活用して整理した。クラゲチャートを活用したことで根拠を明確にし、自分なりの働く人の思いを考えることができた。



資料8：グループで話し合った後の児童Aのクラゲチャート

(6) 地域の人や友達との関わり合いから気づきを深めることができた児童A (第18・19時 手だて① 手だて③ 手だて④)

第18時、「町の人々の思いを話し合おう」では、気づきを深めるために同じ店に行ったグループで「〇〇のため」について話し合い、友達の考えでよいと思ったものを赤ペンで付け足した。すると、児童Aは、クラゲチャートの頭の部分に3つ、足の部分に2つの気づきを付け足した。また、「〇〇のため」について「人のため」と抽象的であったため具体的に書くように促すと、「楽しく元気よくすごしてもらいたいため」と付け足した(資料8)。このように、児童Aは、グループの友達と関わることで、友達の意見を参考にして気づきを深めることができたことが分かる。



資料9：児童Aの振り返り

第19時、グループでの話し合いの後、地域のボランティアの方に再度来ていただき学級全体で「〇〇のため」について話し合った。児童Aは、「私は小川米屋に行きました。私が考えた『〇〇のため』は、小垣江の町の人たちが元気よく過ごしてもらうためです。」と発言した。示した話型に沿って発言したことで、同じ内容を繰り返すことなく発言することができた。すべての訪問先の意見が出そろったところで、「小垣江の町の人は何のためにがんばっているのだろう」と問うと、「小垣江の町の人笑顔で楽しく過ごしてもらうため」という意見にまとまった。児童Aの振り返りに、町の人「〇〇のため」にがんばっているについて、「えがお」「げんきになる」ためと記述されていた(資料9)。クラゲチャートの記述と比べると、「お客さんが」という言葉が増え、お客さんを笑顔にしたら店の人も笑顔になると自分の考えを深めることができた。

(7) 1年生との関わり合いから、気付きを深めることができた児童A (第20～25時 手だて④)

第20～22時には、単元のまとめとして1年生に向けて発表するための準備を訪問先のグループごとに分かれて行った。初めに発表の仕方として、「クイズ、ポスター、紙芝居劇、自分のタブレットで発表ノートを作成し写真や動画を見せる」の例を示した。その中から児童Aが訪問した小川米屋のグループでは「クイズ、ポスター、劇」の3つを選んだが、SKYMENU Cloudの共同編集機能を活用して、タブレットで資料を作成しているグループもあった。第23・24時に1年生への発表を体育館で行った。

ないよう	◎、○、△
くらげをつかって 自分のいけんを せいりすることができた。	◎
たんけんて はっけんしたことから「〇〇のため」を 考えることができた。	◎
さんの 話を聞いて 気づかなかったことに 気づくことができた。	◎
友だちの いけんをきいて 気づかなかったことに 気づくことができた。	◎
1年生に おがきえの町の「すごい」を 伝えたくなった。	◎

資料10：児童Aの振り返りの自己評価

また、振り返りの自己評価で、児童Aは全ての項目に◎をつけた(資料10)。このことから、思考ツールや話型を活用したことで分かりやすく伝えられただけではなく、地域の方や友達、1年生と関わり合うことで、おがきえの町の「すごい」について気付きを深めることができたと言える。

7 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

・手だて①「意見を分かりやすく伝えるための思考ツールや話型の活用」について

第11時では、話型を活用したことで児童Aは、順序立てて自分の原稿をつくり、1回目の町探検で見つけた一押しを分かりやすく紹介することができた。また、第17時ではクラゲチャートを用いたことで2回目の町探検で質問して気付いたことを整理し、働く人の思いについて伝えたり友達の考えを取り入れたりする姿が見られた。第18・19時では作成したクラゲチャートを元に「〇〇のため」を整理して伝えることができた。このことから、意見を分かりやすく伝えるために思考ツールや話型を活用することは気付きを深めるために有効であったと言える。

・手だて②「地域と関わり合う活動の設定」について

児童Aは、1回目の町探検で「もの・こと」を多く発見し、タブレット端末を用いて見つけた「もの・こと」の写真を撮影した。2回目の町探検で質問して、1回目に気付かなかった働く人の思いを知り、その様子を写真や動画で撮ったものを見返すことで、自分なりの「〇〇のため」を考えることができた。このことから、地域と関わり合う活動を取り入れることは気付きを深めるために有効であったと言える。

・手だて③「地域のボランティアの方と関わり合う活動の設定」について

第12時に、地域のボランティアの方から「〇〇のため」という新たな視点をもらい、2回目の町探検を行った。この視点を元に「人」に注目して町探検に出かけることで、働く人の思いに迫り、小垣江の町のすごいところについて気付きを深めることができた。このことから、地域のボランティアの方と関わり合う活動を設定することは、気付きを深めることに有効であったと言える。

・手だて④「友達や他学年の児童と関わり合う活動の設定」について

児童Aは、話し合いの中で友達の意見を聞いて自分の意見に取り入れ、多く付け足す姿が見られた。また、児童Aの発言が学級全体に広がる場面も見られた。話し合いだけではなく、SKYMENU Cloudの共同編集機能も活用したことで、班の児童が各自で撮った写真を基により自分たちが訪問した場所の魅力を伝えられる資料を考えることができた。友達との関わりだけではなく、単元のまとめとして1年生へ学んだことを伝える場面を設定したことで、町探検でより多くのことを調べてみようという意欲が高まった。このことから、友達や他学年の児童と関わり合う活動を設定することは、気付きを深めるために有効であったと言える。

(2) 今後の課題

思考ツールや、話型を活用することで意見を整理することはできたが、発表者は原稿を読んでしまい、聞き手が反応する様子はあまり見られなかった。また、グループ内では意見を伝えることができるが、全体の間では伝えられない児童が多くいた。さらに、2回目の探検後の話し合いで、児童に「〇〇のため」だけを発表させた。そのため「〇〇のため」の理由となった部分は各自が考えグループで話し合ったものだけになってしまった。クラゲチャートで板書し、頭の部分に「〇〇のため」、足の部分に施設や店ごとに理由を書くようにすることで、小垣江の町にあるほかの施設や店の理由も知ることができ、多様な意見を整理しながら気づきを深めることができたのではないかと考える。今後も、関わり合いを通して気づきを深めることができるような伝え合う場の設定の仕方について研究をしていきたい。

また、ICT活用の面でも課題が見られた。Yチャートを書く場面では、教師だけで分類分けをしてしまっていた。しかし、SKYMENU Cloudの発表ノート機能を活用することで全員の考えを共有しながら考えることができたのではないかと考える。また、SKYMENU Cloudの発表ノート機能の中で共同編集の機能がある。この機能をグループで働く人の「〇〇のため」を考える時も活用することで、意見の共有を円滑にした上で考えられ、気づきを深めることができたのではないかと考える。今後も、ICTを活用した上で気づきを深めることにつながる場の設定の仕方について研究していきたい。